ひょうご地域創生通信 | vol.9

"兵庫県"ってナニモノ?

海があって山がある。街もあれば田園もある。
日本のほぼ中心で、個性いっぱいの『五国』が集まる「兵庫県」は、
学びやすくて暮らしやすい、働きやすくて子育てもしやすい、
多彩な魅力と可能性があふれるマジカルランドです。
希望もあれば夢もある。「ひょうご」探しに出かけよう!

ひょうごで暮らす、ひょうごで輝く!

Special

漫画家もぐらさんによる、兵庫県がわかるマンガ!

PROFILE

もぐら 漫画家

愛媛県松山市在住のもぐら。県民性ネタの漫画やエッセイ漫画などを描いている。代表作に「うちのトコでは」など。基本的に引きこもり。可愛い飼い猫が二匹いる。歯磨きを強行している為に最近は嫌われがち。悲しい。
「U5H(兵庫五国連邦)プロジェクト~みんなで語ろう兵庫の五国~」ウェブサイト内で漫画連載中。兵庫県公式ふるさとあるあるマンガ「あるある兵庫五国」好評販売中。

▶学生に優しい県、ひょうご

- 学生未来会議
- 兵庫型奨学金返済支援制度

＼ 学生インタビュー ／
「気になることを聞いてみた」

▶仕事、住まいを探すなら、やっぱりひょうご

- 兵庫に移り住む

＼ 移住者インタビュー ／
「田舎暮らしの魅力とは」

▶文武両道のまち、ひょうご

- 一人ひとりにスポーツの楽しさを
- 感動をすべての人に芸術文化の輪が広がる
- 高校のグラウンドが人工芝に
- 学校生活の充実

▶大阪・関西万博に向けたひょうごの取り組み

- ひょうごフィールドパビリオン

…and more!

学生に優しい県、ひょうご

学生未来会議 学生と知事が意見交換 県の施策に反映

兵庫県では令和3年度から「学生未来会議」を実施しています。若者の自由な発想による意見・提案を県政に反映させるため、県内の大学生、専門学校生、高校生たちが知事と直接向き合い、自由に意見交換。令和5年9月には県公館に約140名が集まり、将来の妊娠のための健康管理を促すプレコンセプションケアの推進や、大学学費・奨学金の負担軽減、多様な働き方の推進について熱い議論が交わされました。若者のアイデアが未来の「ひょうご」に活かされるのって、うれしいですね。

気になる奨学金の返済 県が企業と本人それぞれに 最大年6万円まで支援！

大学で奨学金を利用している人は、将来の返済が気になるものですね。そんな時には兵庫型奨学金返済支援制度が心強い味方になります。県内の中小企業に就職した40歳未満の正社員が、日本学生支援機構の奨学金を返済する際、県と中小企業等が連携して従業員の奨学金返済を支援し、若手社員の負担軽減と中小企業の人材確保につなげます。令和6年1月現在、県内の約260社が制度を導入しています。就職するなら「ひょうご」を検討してみませんか?

県の補助額 2/3	企業の実質負担額 1/3

※従業員の年間返済額が18万円の場合

Keyword

「若者・Z世代応援パッケージ 県立大学を無償化 Z世代の学びを応援！」

Z世代といわれる若者を包括的に応援する取り組みが令和6年度から本格的にスタートします。未来を担う若い世代への支援が重要であると考え、「学びやすい兵庫」「働きやすい兵庫」「子どもを産み育てやすい兵庫」「住みやすい兵庫」をテーマに多様な施策をパッケージ化。学びの分野では、県内在住者を対象に県立大学（兵庫県立大学、芸術文化観光専門職大学）の入学金・授業料が段階的に無償化されます。新制度が適用されない学年でも、年収500万円未満世帯の学生は県内外を問わず、学部・大学院ともに授業料の軽減を継続。また、兵庫型奨学金返済支援制度の年齢要件の緩和や補助期間の延長も検討されています。未来の「ひょうご」に希望が膨らみますね。

地域創生

気になることを聞いてみた

「杉原紙の里・多可」駅長
吉岡 潤さん

×

神戸大学国際人間科学部 3年生
北村 真弥さん

移住者のバランス感覚を大切に 地元客と観光客の絆をつなぎたい

移住の良さや将来について語り合う吉岡潤さんと北村真弥さん

奨学金返済支援のねらい

兵庫県には、県内の中小企業に就職した40歳未満の正社員の奨学金返済をサポートする兵庫型奨学金返済支援制度があります。日本学生支援機構の奨学金返済について、就職から最長17年まで企業と本人に、年間返済額の3分の1の額（上限年6万円）をそれぞれ補助。対象年齢の緩和や、補助期間の延長が検討されています。

新しい発想で利用者を増やす

吉岡　多可町にある道の駅「杉原紙の里・多可」で令和4年1月から駅長をしています。レストラン運営や特産品の販売など、忙しくも充実した毎日を過ごしています。

北村　大阪に住んでいた吉岡さんがどうして、多可町に移住したんですか?

吉岡　大手衣料品会社に勤めていた時に大学時代の男友達2人と同居しようと決めたんです。予算内で1番広い住まいを探した結果、見つけたのが多可町。12部屋ある一軒家に2人が先に移住し、僕は半年後に仕事を辞めて合流しました。そして地域おこし協力隊に応募して駅長になったんですよ。

北村　気が合う友達だったのですね。道の駅はどんな利用者が多いのですか?

吉岡　季節によって異なりますが神戸や姫路の方が多いです。地元の方も多く、特にレストランでのモーニングは人気です。

北村　モーニング! 私も食べたいです。駅長として力を入れていることは?

吉岡　地元客、観光客の両者が満足でき、バランス良くお越しいただけるように取り組んでいます。移住者だからこそ気づく多可町の良い点や改善点を地元の皆さんに率直に伝えるのは僕だからできると思います。

北村　駅長としてチャレンジされた中で、どんなことが実ってきていますか。

吉岡　大人1人の飲食につき子ども1人の食事代を無料にするキャンペーンですね。売上が減る冬期に地元客の利用を増やし、皆を笑顔にしようと考えました。リピートしてもらえて利益も上がっています。初めて来る方もいてすごい反響です。

「播州百日どり」を通常の2倍乗せた「肉倍」メニューも吉岡さんが考案

自分の強みを生かせる場所に

北村　移住して良かったことは何ですか。

吉岡　新しい環境に来て、小売りの経験や体力など、自分しか持っていない価値に気づかせてもらえ、生き方がポジティブになったことですね。大阪では自分の代わりはいくらでもいると思っていましたから。

道の駅「杉原紙の里・多可」は深い山あいにある

北村　私も大学院や就職など将来を考える時期ですが、自分にできることを探し続けるのは大切だと勉強になりました。今、多可町のどこに魅力を感じていますか。

吉岡　お米や播州百日どり、お酒など食べ物がすごく美味しいところですね。兵庫県の真ん中に位置していて、日本海側にも神戸市内にも、どこでも行きやすいのが気に入ってます。地域おこし協力隊の任期が終わった後は検討中ですが、兵庫県はずっと関わり続けていきたいし、自分が成長できる場であってほしいですね。

【インタビューを終えて】

道の駅でお土産探しを楽しむ北村さん

吉岡さんが移住者の視点を大切に道の駅を運営されている姿勢に感心しました。私も、留学生の友達から日本や、出身地の山口県の魅力に気づかされたことがあります。外からの目を生かすことは大事ですね。自分の強みを見つけ、積極的に行動するところもうらやましい。私もこれから兵庫の良さにいっぱい出会いたいですね。

PROFILE

よしおか・じゅん●大阪府豊中市生まれ。同志社大学を卒業後に大手衣料品会社に就職。令和3年に同社を退職して多可町に移住。地域おこし協力隊として、令和4年1月に道の駅「杉原紙の里・多可」の駅長に就任。大学時代から続けるYouTubeチャンネルやTikTokでも道の駅や町の魅力を発信して話題を呼んでいます。

町内産の自慢のお米「金黄舞」を棚出しする吉岡さん

※令和6年1月に取材しました。肩書、学年は当時のものです。

仕事、住まいを探すなら、やっぱりひょうご

地域ごとに多彩な魅力 移住とキャリアアップ その選択を後押しします

日本のほぼ中央に位置する兵庫県。北は日本海、南は瀬戸内海に面し、地形・気候・歴史もさまざまで、大都市から農村までが日本の縮図のように勢ぞろい、お気に入りのまちやライフスタイルがきっと見つかります。

移住時は新しい仕事が見つかるかも気になるところ。県では転職や移住を後押しする支援策として、県内企業の情報を広く提供する「ひょうごで働こう！マッチングサイト」や、移住支援金・起業支援金などを多彩な取り組みを進めています。例えば、直近10年間のうち通算5年以上、東京23区に在住・通勤していた人で、移住先の対象市町で5年以上の居住を予定している場合は、移住支援金の対象となります。県内企業での「おためし体験」も令和4年度からスタート。首都圏からの参加者には、体験中の宿泊費と旅費を助成するなど制度がさらに充実しています。空き家の活用や田舎暮らしを考える人へのサポートも強化。兵庫県への移住をお考えの方は、無料で移住相談ができる兵庫県移住相談窓口までぜひご相談ください。

移住に興味がある方は、ぜひp.7もご覧ください！

働きやすい兵庫

起業家支援事業

兵庫県は起業家も応援します。令和6年度も起業家支援事業を実施。県内で新たに起業・第二創業する方が審査会で有望なビジネスプランであると選定された場合、新事業展開を行うための経費を最大100万円※（補助率2分の1以内）まで補助します。※条件により上乗せあり

● 募集の問い合わせ・応募先
公益財団法人ひょうご産業活性化センター 創業推進部新事業課
[TEL]078-977-9072
下記サイトはコチラのQRコードから
http://web.hyogo-iic.ne.jp/kigyo/guide/joseikin

住みやすい兵庫

子育て世帯への住宅支援

都市部を中心に住宅価格が高騰する中、兵庫県は若い世代が安心して子育てできる住宅や住環境を確保できるように支援していきます。子育て世帯の住宅ニーズをふまえて、県営住宅への優先入居や子育て世帯向けのリノベーションを実施。阪神間において民間住宅への入居も支援し、子育てしやすいモデル地域づくりに取り組んでいきます。

● お問い合わせ
兵庫県 まちづくり部 住宅政策課
[TEL]078-362-3581
jutakuseisaku@pref.hyogo.lg.jp
兵庫県 まちづくり部 公営住宅管理課
[TEL]078-230-8460
jutakukanri@pref.hyogo.lg.jp

子どもを産み育てやすい兵庫

不妊治療支援を強化

兵庫県は子どもを産み、育てたい方たちが安心して不妊治療を受けられる環境づくりに力を入れています。令和6年度は不妊治療支援の強化として約2億円の予算を計上。先進医療にかかる通院交通費の助成や、治療のための休暇制度の整備を促進。若者世代の妊娠・出産を含む健康づくりを支援するためのプレコンセプションケアにも積極的に取り組んでいきます。

● お問い合わせ
兵庫県 保健医療部 健康増進課
[TEL]078-362-3250
kenkouzoushinka@pref.hyogo.lg.jp

築約130年の古民家で暮らす加藤さんご家族

移住しました

田舎暮らしの魅力とは

地域おこし協力隊
加藤さんご家族
俊希さん、梨絵さん、蔵之助くん

×

地域おこし協力隊
コーディネーター
河口 英樹さん

「やってみよう精神」で古民家で暮らしながら子育て

空き家活用へ好きなことを実践

丹波篠山市の市野々で、築約130年の古民家に1歳の蔵之助くんと暮らす加藤さん夫婦。令和4年春に大阪市内から移住し、俊希さん(30)は地域おこし協力隊として空き家対策の活動をしながら、移住前からの仕事であるマーケティング職を個人で続けています。梨絵さん(33)は蔵之助くんの出産後から近隣の京都府内の地域包括支援センターに勤務。企業内保育園が同じ建物にあり、親子一緒に通勤しています。

移住のきっかけはリモートワークが普及する中、「2拠点生活を始めたい」と思ったこと。俊希さんが仕事で何度も訪ねたこと

リモートの進展で都会との距離感は感じないと話す俊希さん

があり、梨絵さんの実家がある明石市にも近い丹波篠山で探すうちに、今暮らす古民家に出会いました。「改修済みで売りに出ていて、お試し宿泊をしてみると昔ながらの建物の雰囲気が気に入ったんです。すぐに二人で購入を決めました」と俊希さんと振り返ります。

移住直後は写真入りの挨拶文を集落の住民に配布。「アンティークや古いものが好き」と書き添えると、「祖母が使っていたからどうぞ」という箪笥(たんす)を近所からいただくなど集落の人たちとの交流が始まりました。そして、地域の課題解決に取り組む地域おこし協力隊の募集を知ることに。「住み始めると空き家が多いことを実感。自分の好きなことと方向性が合う仕事で地域にプラスになるのなら」と協力隊に応募し、大阪のマンションを解約して、丹波篠山での暮らしに本腰を入れることになりました。

右)キッチンも既にリフォーム済みですぐに生活が始められた。左)床の間もある座敷で元気に遊ぶ蔵之助くん。

梨絵さんは「集落の皆さんが想像以上に温かく迎え入れてくださいました。あまり考えすぎず『やってみよう精神』で来たのが良かったのかも。豊かな自然の中で子育てができ、貴重な経験に恵まれていることを感じる」と話します。俊希さんは近々、古民家再生事業を行う会社を立ち上げる予定。「ここでは大工や左官など手仕事を生業とする人たちと一緒に仕事ができ、新しい可能性に出会えます。空き家に明かりが灯り、皆で祭りや農作業をしたりして集落を再生したい」と夢を膨らませています。

PROFILE

かとうさんファミリー●大阪から丹波篠山市市野々集落に移住した加藤家。俊希さんは平成5年群馬県生まれで、地域おこし協力隊であるとともにマーケティング職を個人で営む。近々、会社を設立する予定。梨絵さんは平成2年兵庫県生まれで助産師をしていたが、現在は地域包括支援センターに勤務。令和4年4月に生まれた蔵之助くんは集落で約20年ぶりの赤ちゃん誕生となった。

早くも地域に溶け込み集落を元気に

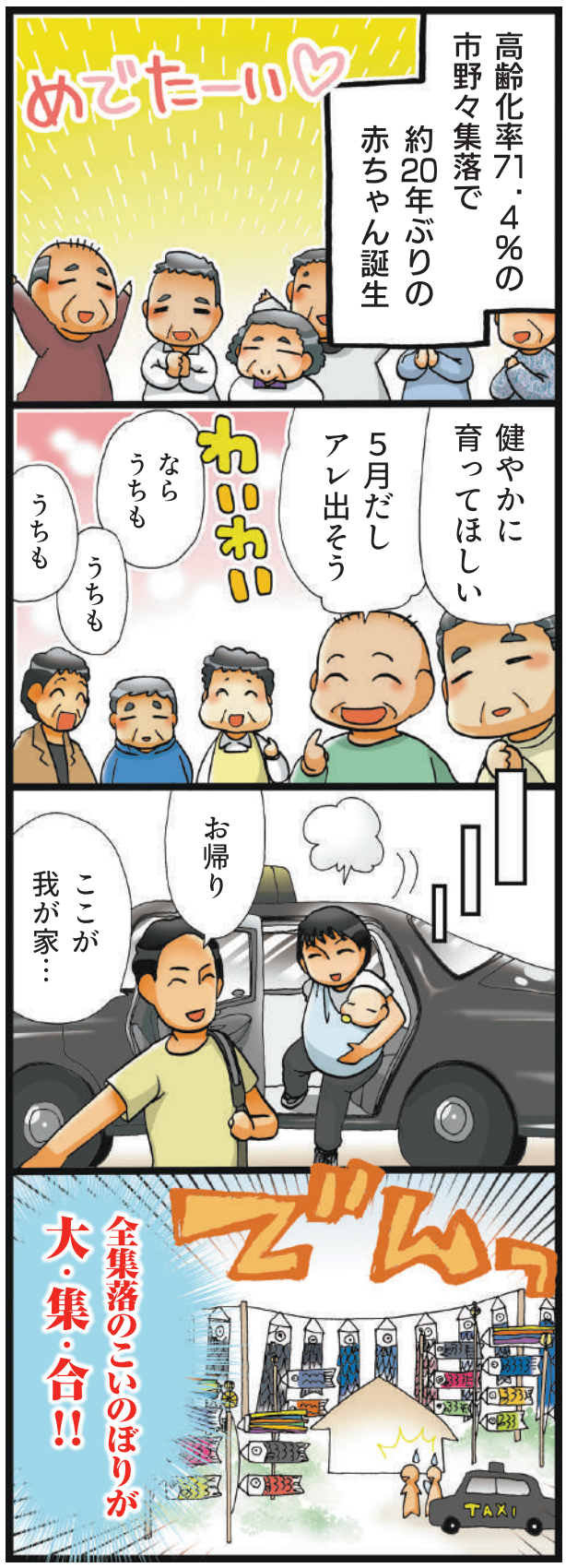
地域おこし協力隊コーディネーター
河口 英樹さん

丹波篠山市は移住者に対してきめの細かいサポートを実践しています。地域おこし協力隊もフリーミッション型が特色。地域が求めている内容や人材を、私たちコーディネーターが丁寧に聞き取り、協力隊の応募者と直接話してマッチングします。言わば「地域の人事部」のような存在、行政や地域をつなぎ、起業しやすい環境を作り、永住を支援しています。

「地域の人事部」として支援したいと話す河口さん

加藤さんが暮らす地区は、空き家率の高さが課題でした。加藤さんは他県に暮らす所有者と粘り強く交渉し、信頼を得ています。加藤さんが、移住して間もない頃に、集落の人に挨拶文を配ったのは地域に馴染むうえで大切なポイントでした。地方ではどのような移住者が来るのか気になるもの。自分から自己紹介すると早く地域に溶け込めます。これからも期待しています。

全集落のこいのぼりが!!



加藤さんご家族が暮らす市野々集落は、市の玄関口・JR篠山口駅から最も遠い山あいに位置し、集落の人口は約60人。蔵之助くんの誕生は、集落にとっても大きな喜びとなったそうで、梨絵さんが出産後、蔵之助くんと初めて自宅に帰った時には、近隣の皆さんが自宅に眠る鯉のぼりを久しぶりに引っ張り出し、青空にたくさん泳がせて、盛大に出迎えたそうです。

文武両道のまち、ひょうご

一人ひとりにスポーツの楽しさを

兵庫県は一人ひとりが健康で、いきいきと暮らす社会の実現を目指して、「スポーツ立県ひょうご」を推進しています。プロスポーツクラブと連携し、子どもたちがスポーツに触れる機会を増やすため、小中高生をプロスポーツの試合観戦に招待したり、選手やスタッフから直接指導を受けられるスポーツ教室などを開催。これらの事業には「ふるさと納税（ふるさとひょうご寄附金）」や「企業版ふるさと納税（地方創生応援税制）」が活用されています。

学校生活の充実

県立学校の児童・生徒が充実した学校生活を送れるよう、生徒たちが作成した整備計画に基づき、授業や部活動で使用する用具・備品等の整備を実施しています。

3年間で9億円分!?

感動をすべての人に芸術文化の輪が広がる

平成7年の阪神・淡路大震災では復興の過程で、傷ついた心を芸術が癒やしてくれることを県民は実感しました。そこで平成16年に「芸術文化振興ビジョン」を策定。2度の改定を経て、芸術文化をすべての人が楽しめる取り組みを進めています。令和4年度からは芸術文化施設の無料開放や無料イベントを実施する「ひょうごプレミアム芸術デー」がスタート。無料の一時保育や子ども連れの方・障害のある方を優先的に案内するハートフル・ファストトラック、赤ちゃん連れのパパ・ママも周りを気にせず観覧できる「自由に話せる観覧日」などが好評。他にも、Z世代の芸術文化作品等の発表の場の創出や学校の部活動をサポートする「アートで躍動 Z世代文化部応援プロジェクト」も展開。心豊かな「ひょうご」の魅力を体感してみませんか?

令和6年度 ひょうごプレミアム芸術デー
7月9日（火）～15日（月・祝）
ナイトミュージアムや子ども学芸員体験などを新たに実施!

高校のグラウンドが人工芝に！

兵庫県教育委員会が令和5～10年の6年計画で進める県立学校の環境整備の一貫として、県立社高校を含めた3校のグラウンドの人工芝生化が決まりました。県立唯一の体育科がある社高校に人工芝グラウンドを整備。よりよい環境でのプレーが可能になります。

Keyword

「高校生の海外留学を支援」

現在、留学費用の高騰により、海外での学びを諦める学生が多くいます。そこで、兵庫県では官民協働で支援する「HYOGO高校生「海外武者修行」応援プロジェクト」を創設し、約1ヶ月間、留学先でスポーツや芸術、社会貢献、地域産業、ビジネス等の分野で個々の学びを深めるためにチャレンジする高校生の留学費用等を支援するなど、兵庫で学び、グローバルな視点・能力を持ち国際的に活躍する若者の育成につなげていきます。

Keyword

「HYOGOアサ@プロジェクト」

「ひょうご」の人々が毎日迎える朝が、素敵な時間であってほしい。そんな願いを込めて、兵庫県はパートナー企業と連携し、皆さんの「朝」を応援する「HYOGOアサ@プロジェクト」を展開しています。高校生との地元食材を使った朝食向け商品の共同開発やインスタグラムでのプロスポーツ選手の朝ごはん紹介など多彩なメニューを展開中。朝の時間にLINEで出題されるクイズキャンペーン「はばタンチャレンジ」も話題になっています。

HYOGOアサ@プロジェクト公式インスタグラム

ひょうごフィールドパビリオン

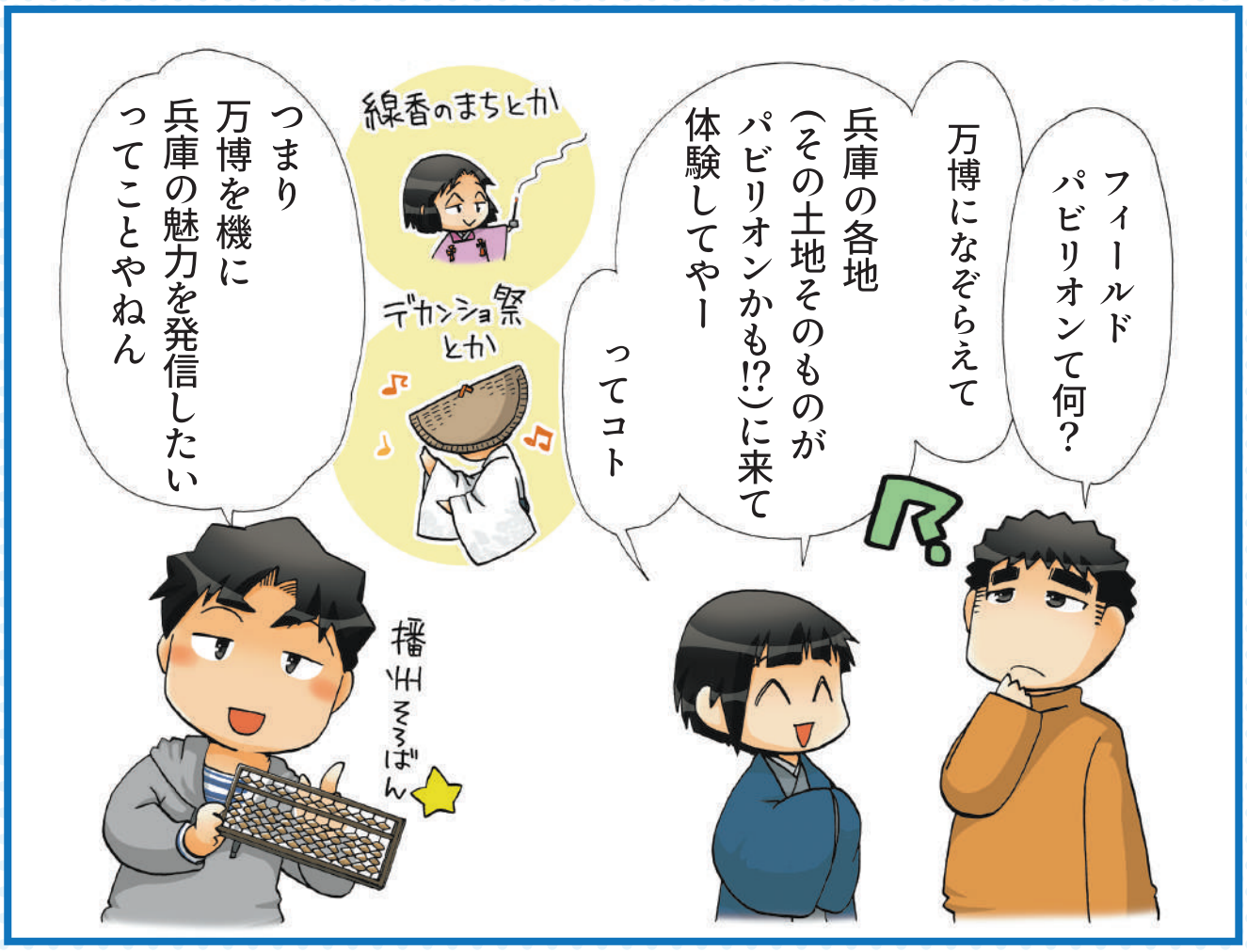
兵庫県では摂津・播磨・但馬・丹波・淡路という歴史も風土も異なる個性豊かな五国の人々が地域を豊かにする取り組みを行ってきました。その取り組みの中には、世界が持続可能な発展を遂げていくためのヒントが秘められています。

ひょうごフィールドパビリオンは、地域の「活動の現場そのもの（フィールド）」を、地域の方々が主体となって発信し、多くの人に来て、見て、学び、体験していただく取り組みです。

ひょうごフィールドパビリオン
Our Field, Our SDGs
私たちのフィールド、私たちのSDGs

ひょうごフィールドパビリオン
公式インスタグラム

大阪・関西万博に向けた ひょうご の取り組み



ひょうご移住のリアリティ“ひょうご移住ストーリー”

「一風変わった、移住動画です。」

この動画の紹介を依頼すると、兵庫県の移住促進担当者が、いきなりこう言った。なんだそれ？長い時間をかけ、雑談できるほど仲良くなった取材チームが、「きっかけ」や「子育て」等のテーマ毎に移住者の生活を切り取ってできた28のストーリー。どれも2分程度でさっくり見れる。

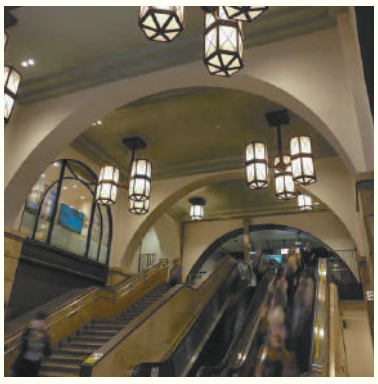
なるほど。ここまでリアリティのある移住動画はあまりないかもしれない。「移住を自分事化する」という感覚を、是非体験して欲しい。

https://www.yume-hyogo.com/hyogo_iju_story/

上記サイトは
コチラの
QRコードから

● お問い合わせ（移住に関するご相談もお気軽に!）
兵庫県 企画部 計画課
[TEL]078-360-9971
hyogo_comeback@pref.hyogo.lg.jp

@kiki.926gr_



@amefurino_kita

@yasuc.o

@0713haru_papa

@toramaruhime_

@kobe_studies_meister_in_kyoto

忘れられない「ひょうご」がある

兵庫県の地域創生公式インスタグラムアカウント@love_hyogoの投稿写真から、とっておきの映え写真をご紹介。
ほかにもたくさん掲載している@love_hyogoもぜひ、のぞいてみてください。

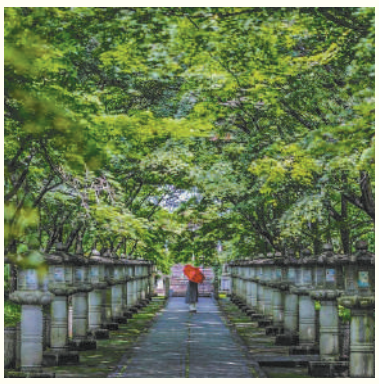
@etsukun3

@yoko._.o101

@postman1112

@toshihiro7183

@butsuyoku2031



@zen_assist

#lovehyogo

ひょうご地域創生通信 Vol.9
発行／兵庫県 企画部計画課　〒650-8567　神戸市中央区下山手通 5-10-1　TEL. 078-362-4218　FAX. 078-362-3993

05企P2-079A3